



(株) 最上真室川新田農園
代表取締役社長 新田建・祥子ご夫妻

人と人とのつながりを大事にし、女性が働きやすい職場を目指す町内のミニトマト栽培の先駆者



経営のきっかけ・こだわり・思いをお聞かせください。

妻の実家はもともと水稲主体の専業農家として農業を営んでおり、両親が守り続けた農地を守りたいとの思いから、2人で平成15年に就農しました。

当初は、町内でいち早くミニトマト栽培を行っていた両親から4棟のハウスを引き継いで生産販売していましたが、規模拡大（現在13棟）していく中で、慢性的に人手が足りなくなり、雇用の確保と自社の経営体制の改善を図ることを考え、令和元年に(株)最上真室川新田農園を立ち上げました。

現在は、ミニトマトのほかに、水稲、ほうれん草、雪野菜（白菜、キャベツ）を栽培しています。

また、地元小学校近くの水田を農業体験学習の場として提供するなど、地域貢献活動にも取り組んでいます。



ミニトマト栽培を営む新田ご夫妻
祥子さんは、**農業女子プロジェクトメンバー、山形農業女子（あぐっと）メンバー**としても活躍中



農業の魅力についてお聞かせください。

農業は頑張ったことや工夫したことが成果として作物に現れます。

また、人が生きていくために食料は絶対必要な物であり、それを生産する農業は責任のある仕事だと感じています。



農業体験学習の風景（田植え）
（写真提供：新田農園）



経営するミニトマトハウス



今後の経営、目標や夢、将来展望をお聞かせください。

パートを12名雇用しており、このうち11名が女性です。今後も子育て等によりフルタイムで働けない女性を雇用し女性が活躍する場を提供していきたいと思えます。

また、女性ならではの意見を生産過程に取り入れ、成果をみんなで共有し、やりがいを持って働ける職場にしていきたいと思えます。



順調に育っているミニトマト
（写真提供：新田農園）